

# まだまだ変わる総社市の姿

総社市では現在、人口、企業、雇用が増えており、まちの姿が変わりつつあります。その背景にあるのは、総社市独自の政策です。今後も市民一人ひとりが輝けるまちを目指し、独自の政策を推し進めていきます。

## 企業が進出 雇用が拡大

長良地内の岡山総社インターチェンジ流通センターに、グローバル・ロジスティック・プロパティーズ株式会社が建設していた大型物流倉庫の2棟目（GLP岡山総社Ⅱ）がしゅん工しました。また、GLP岡山総社Ⅱの北側では、日本郵便株式会社と日本郵便輸送株式会社が、郵便・物流ネットワークの再編に伴う大型の新拠点を建設中。完成は今年の冬ごろを予定しています。

これらの企業立地により、長良地内だけでも雇用が2000人増加することが見込まれており、地域経済の活性化が期待されます。



昨年11月5日にしゅん工式が行われたGLP岡山総社Ⅱ。北側では、日本郵便株式会社と日本郵便輸送株式会社の大型集配センターの建設が進む



平成28年4月から「体育・英語特区」が始まる池田幼稚園。外国人のALT（外国語指導助手）と楽しく英語を学ぶ

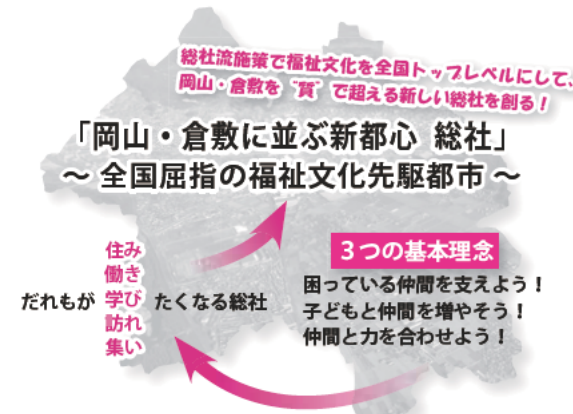
## 総社の教育特区がさらに充実

平成26年4月から、昭和中学校、昭和小学校、維新小学校、維新幼稚園、山田幼稚園の5校園で、英語のコミュニケーション能力を高めることに重点を置いた「英語特区」がスタートしました。平成27年12月現在、学区外から英語特区に通う子どもの数は50人です。

平成28年4月から、新本・池田幼稚園、新本・池田小学校でも「英語特区」がスタート。さらに、新本幼稚園・小学校では音楽に触れる機会を増やし、専門的な技能と豊かな感性を養う「音楽特区」。池田幼稚園・小学校では運動に親しみ、健やかな体づくりを目的に「体育特区」も始まります。これら総社流の教育特区により、人口が減少している地域への移住者増加が見込まれます。

## 第2次 総社市総合計画策定

第2次総社市総合計画を策定しました。この計画は、今後10年間のまちづくりの指針となるものです。目指す都市像は、「岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社～全国屈指の福祉文化先駆都市」。市では、総社流施策により、人口が増えています。今後も発展を続け、「福祉を重視したまち」を目指し、医療体制の充実や子どもから高齢者まで安心して暮らせる福祉施策を全国トップレベルにします。そして、「生活の質」の高さにおいて、岡山市・倉敷市と並び、超えていくよう、先駆的に取り組んでいきます。



# 3 期目 スタート

## 全国屈指の福祉先駆都市へ

昨年10月4日、任期満了に伴い行われた総社市長選挙で片岡聡一市長が再選。「全国屈指の福祉先駆都市の実現」を目指し、10月14日から3期目となる片岡市政がスタートしました。



総社市長 片岡 聡一  
KATAOKA SOICHI  
[任期：平成27年10月14日～平成31年10月13日]

「高齢者支援部会」では、一人暮らしの高齢者やその予備軍の孤立感を解消し、寄り添い合う介護予防体制づくりを検討。「医療体制整備部会」では、回復期の対応を充実させるとともに、民間による2次救急病院の整備を推進。市内外の医療機関との連携を深め、

●全国屈指の福祉先駆都市  
総社市を、高齢者や障がい者、子育て世帯の女性など、社会的に痛みを感じている人が希望をもって生きていけるよう全力を尽くすまち、「福祉先駆都市」にしていきます。  
昨年12月3日には、既存の制度にとられない独自の福祉政策を検討する「全国屈指福祉会議」を立ち上げました。会議の下には、「高齢者支援部会」、「医療体制整備部会」、「待機児童ゼロ部会」、「発達障がい児支援部会」の4部会を設置。市職員や関連団体、有識者で具体的な議論を開始しています。

「新たなランドデザイン」  
市内に企業誘致が進み、2年以内には雇用が約3500人増えてきます。その人たちの定住や、さらなる企業誘致を進めていくためには、現在そのほとんどが農地である岡山県立大学周辺や吉備線沿線の土地利用のあり方を変えていかなければなりません。そこで問題となる農地の転用については、国や県に粘り強く訴えていきます。また、吉備線のLRT化の議論も進めながら、総社市の新たなランドデザインを描いていきたいと考えています。

救急医療から在宅医療まで切れ目のない医療体制を整備していきます。「待機児童ゼロ部会」では、預かり保育や小規模保育、事業所内保育を充実させ、3年以内待機児童をなくしていきます。「発達障がい児支援部会」では、発達障がい児が幼児期から義務教育課程までのなかで、社会性を養える仕組みを築きます。